地域住民の意思でつくる
自分たちの学校

京都御池中学校（京都府京都市）

本事例のキーワード

複合化　地域と連携　対話型設計　PFI手法　中学校

京都御池中学校外観。道路に面した１階部分には、レストランなどの店舗が入る。

事例のポイント

学校の統合にあたり、計画段階から地域住民が主体的に関わり、地域からの提案を踏まえて新校舎を整備。

新校舎は地域の拠点となる複合施設として整備され、地域住民とともに歩む学校運営が行われている。

事例概要

京都御池中学校は、児童生徒数の減少を背景に、幾度かの統合を経て、14の学区（旧番組小学校区）の自治連合会と５小中学校のＰＴＡが合意し統合、平成15年に開校した中学校である。統合にあたっては、自治連合会、ＰＴＡ、学校関係者が「新中学校設立推進委員会」を設立し、新しい中学校の在り方や新しい校舎施設について議論を重ねた。

地域からの提案に基づき、新しく整備する校舎は、市内の中心地にあり利便性に優れた立地であることから、ひとづくり・まちづくりの拠点となるよう、高齢者福祉施設、保育所、賑わい施設や行政スペース等を併設する複合施設として整備されることとなった。

整備に当たっては、コスト削減の必要性に加え、大規模な複合施設を総合的に整備し、将来にわたって管理していくために適した手法という観点から検討が重ねられた結果、民間事業者の発想や活力を取り入れることができるPFI手法を導入することとされた。

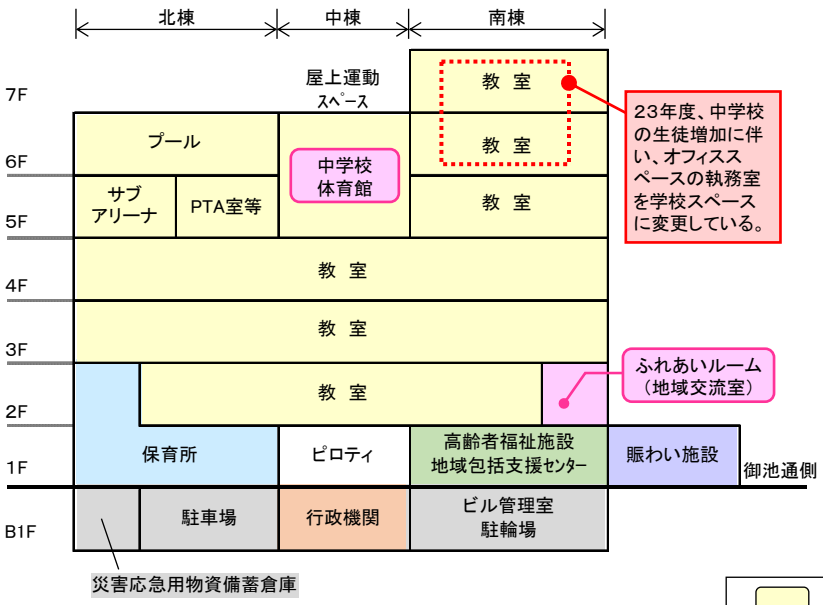
新校舎には、地域住民のアイディアが随所に反映されている。例えば、廊下や会議室の床には、床材としては珍しい竹材が使われていたり、校内のトイレには和の伝統色で染められたのれんが掛けられていたり、地域住民の協力により実現したものである。

また、中学生が保育所や高齢者福祉施設、賑わい施設で職業体験（生き方探究・チャレンジ体験）を行ったり、学校行事に保育園児や高齢者の方々に参加してもらうなど、複合施設として物理的な距離の近さがあってこその日常的な交流が盛んに行われている。

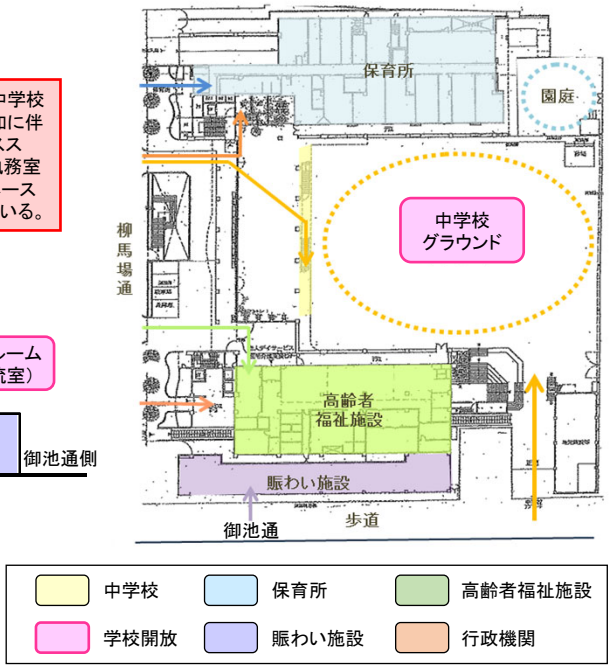
CO-SHA PLATFORM
CO-SHA Platform ウェブサイト
https://www.mext.go.jp/co-sha/

施設の配置・動線

＜立面図＞



＜配置図＞



事例ポイント１

官民連携による整備・運営

京都市において初めての大規模な複合施設の整備であったことから、民間事業者のノウハウを活用して適正な整備と維持管理を行うため、PFI方式を採用した。PFIを導入することにより、事業コンセプトが高いレベルで実現されるとともに、財政負担の削減と平準化や、教職員の負担軽減等にもつながった。

◯ PFI 導入の主な目的と効果

・財政支出の削減・平準化（従来方式よりも整備費を約 30％削減）
・限られた敷地、事業期間、事業費等の厳しい条件のもと、民間事業者が提案力を競うことにより、事業コンセプト（複合施設の目的等）を高いレベルで実現。
・設計から維持管理まで一括で発注することにより、意思疎通も含め効率的に事業を実施。
・安心かつ効率的な複合施設の維持管理業務の実施により教職員等の負担が軽減 。

◯ PFI 導入により生じたこと

・通常の学校施設整備よりも契約手続き等が複雑であり、時間を要した。
（学校施設単体よりも規模が大きいため、政府調達契約となった。）
・修繕等の可否について、学校と教育委員会だけでなくPFI事業者を通す必要がある。
（PFI 事業者で対応すべき修繕かどうか判断を要するため）

事例ポイント２

地域の提案に基づく施設の整備

学校の統合を契機に、地域が「新中学校設立推進委員会」を設立し、新しい中学校の在り方や新しい校舎施設について議論を重ねた。その中で、新校舎のコンセプトとして、「ひとづくり・まちづくりの拠点施設とすること」、「街のシンボルロードである御池通の活性化に寄与すること」、「将来の人口増や少人数教育に対応できること」、「体験や交流を通じた幅広い学習機会を提供すること」等が提案された。

このような提案に基づき、新校舎は、保育所、高齢者福祉施設、行政機関と複合化することにより地域の教育と福祉の拠点施設とすることとされ、また、御池通に面して商業施設を併設することとされた。各施設は、中学校のグラウンドをコの字型に囲むように配置されており、各施設の窓からグラウンドの様子が間近に見られるため、地域の様々な世代が繋がりを感じることができるよう計画されている。

校舎内は、廊下や会議室の床材に竹材が使われていたり、和室には二条城の障壁画「松鷹図」を復元した襖絵が採用されていたり、トイレには和の伝統色で染められたのれんがかけられていたり、地域住民のアイディアと協力により特徴あるしつらえとなっている。

大通りに面した部分に商業施設を配置

保育園、高齢者福祉施設からは
グラウンドの様子が見える

伝統文化に取り組める和室
（二条城の障壁画を復元した襖絵）

事例ポイント３

地域住民との交流による多様な学習機会の創出

窓からのぞくとお互いの様子がうかがえる距離の近さから、中学校の生徒たちと複合施設の利用者との交流が日常的に行われている。

例えば、中学校の生徒たちが、保育所、商業施設、高齢者福祉施設で職業体験を行ったり、美術部員が保育園児に向けて紙芝居を作り、読み聞かせに行くこともある。また、高齢者と中学生が昼休みにともに練習を重ね、コラボダンスをしたこともあった。

校区内にある御所南小学校・御所東小学校・高倉小学校の６年生が中学校校舎で学ぶ５・４制の小中一貫教育を実施しているが、６年生を対象に学区内に住まう茶道、華道、狂言などの師匠たちを講師として迎えて、日本の伝統文化について指導を受けることもある。児童たちにとって、より高度な専門知識に触れる貴重な機会となっている。

京都は明治に「番組小学校」を町衆の力で創設した歴史があり、学校が核となり地域の絆を結びつけるという思いや、教育への意気込みの強い地域である。現在も、京都御池中学校では地域住民が協力して、児童・生徒たちに多様な学びの機会を提供している。

高齢者とのコラボダンス

保育園での絵本の読み聞かせ

学校概要

京都御池中学校
京都府京都市

全体工期：平成16年11月～平成18年2月
学校規模：小学校6年生：10学級（１）、325人
　　中学校1～3年生：20学級（２）、650人
　　※5・4制の小中一貫教育を実施しているため、校区の3小学校の6年生も含む。
　　※学級数のカッコ内は特別支援学級数を表す。
敷地面積：20,263m2
保有面積：中学校 14,467m2 / 保育所 1,644m2 / 高齢者福祉施設 755m2 / 行政施設 735m2
　　/ 賑わい施設 349m2 / 共用部分 2,313m2
構造：RC造地上７階地下１階
※令和5年５月時点